

論述ブースト No.8

研究者・医師の二つの顔を論じる ―― 医学研究の意義と限界を答案に組み込む

導入文

「医師になって研究したい」という志望動機を持つ生徒は多いが、「なぜ医師が研究するのか」「研究の倫理的制約とは何か」を論じられる生徒は少ない。医学研究の意義・限界・研究倫理を体系的に理解することで、面接・小論文での「研究志向型医師像」の論証が深まる。

講義概要

医学研究の意義（エビデンスの創出・治療の進歩）と限界（研究倫理・インフォームドコンセント・利益相反・再現性の危機）を体系化する。臨床医と研究者の役割の違い、研究成果が臨床に届くまでのプロセスを整理し、「医師研究者として何をするか」を論証できる力を育てる。

授業目標：医師研究者像の論述を「研究したい」という願望から、意義・限界・倫理を含む論証へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・大学院進学志望で、面接・小論文の「研究志向型医師像」の論証力を高めたい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：医学研究の意義を具体的に説明できる／研究倫理の基本概念を答案に組み込める／臨床と研究の役割分担を論じられる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「研究したい」だけの答えと論証のある答えを比較 2 意義：エビデンスの創出・未解決疾患へのアプローチ 3 プロセス：基礎研究→臨床試験→実装までの流れ 4 倫理：インフォームドコンセント・利益相反・再現性の危機 5 役割分担：臨床医と研究者の違いと協働の意味 6 演習：「なぜ医師として研究するか」を論証で書く 7 まとめ：意義・限界・倫理の3点を含む論証骨子を固定

追加30分：「医師として研究に携わることの意義と課題」を300字で論じる演習と個別フィードバックを行う。

板書・スライド骨子：医学研究の意義と種類／基礎→臨床のプロセス／研究倫理の主要概念／論証骨子テンプレート

課題：「医師が研究者でもある必要はあるか」を意義・限界・倫理の3点を含めて300字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。